

子ども達に何を身に付けさせるか

R4.4.23 文責：校長

■ はじめに

活用から気づいた知識の必要性

横浜市立神奈川小学校6年生の家庭科の授業。子供たちは、2、3人のグループに分かれて上履き袋を製作していた。前時では袋に入れるシューズを採寸して、袋のデザインを考えて製作の計画書を作っていた。

本時では実際に製作する。ただ、いきなり布を切って縫うのではなく、まず不織布に折り目や縫う線を書き入れて、裁断して、ホチキスで留めて、仮の袋を作った。

仮の袋が出来上がり、シューズを入れてみた……入らない。計画どおり袋に収まったのは13グループ中、2グループだけ。教室のあちらこちらから「あれえ？」と声が起こる。すかさず担任が、「何が“あれえ？”だったの？理由を考えてみて。」と課題を提起。

「縦の長さにはちょっと余裕をもって切ったはずなのに、上履きがはみ出しちゃった。」

「ゆとりをもって切ったはずなのに、ピッタリ。これじゃ入れにくいし出しにくい。」

どうしてこうなったのか、1つのペアが前に出て、上履きの採寸を再現した。左右を並べて定規で長さを測り、幅を測る。子供たちは気づき始める。

「平面でこのくらいかなって測ったけれど、実際に入れるためには立体的に見ることが大切だから、余分に切ることが必要だったんじゃないかと思いました。」

じゃあ、立体を測るにはどうやったらいいのかという新たな問いには「実際に包んでみる」と、たちどころに答えを見つけた。

「高さや厚みがあるから、ランチョンマットとは違うね。」と言った子もいた。ランチョンマットは5年生で作っていた。「縫いしろも必要だった。」という子もいた。経験や既習事項とどんどんつながっていく。

上履きの寸法を測って、それに基づいて製作計画を書き、不織布とホチキスで試し作りをするまで、担任はあえて袋物製作の一番肝心な知識の指導をしなかった。多くの子どもたちが失敗することも織り込み済みだった。

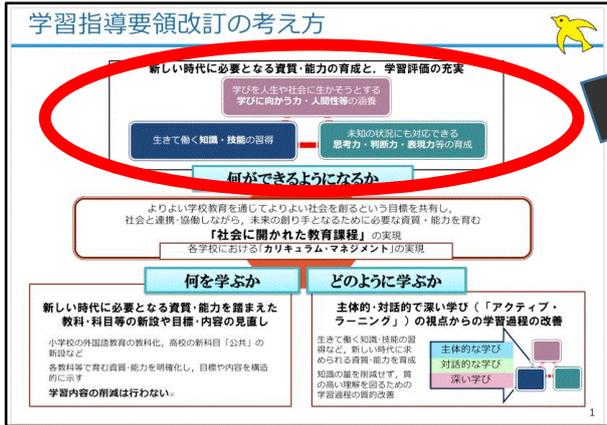
不織布とホチキスで10分程度の時間で作った試作品が失敗作だったとしても、子供たちに大きなダメージはない。適度に失敗から学べるように計画されていた。

ねらいどおり、失敗を通して必要な知識に気がついた。この授業で子供たちに身に付けてほしい知識・技能は「上履き袋に必要な布の大きさには、ゆとりの分量を加える必要があることを理解する。」問題解決の過程で「ゆとり（が必要）」「余分」という言葉は、子供たちから自然に出てきていた。最初から教えられるより、体感して得た知識・技能は、しっかりと子供たちの身に付き、生活場面でも生かされることだろう。振り返りに、こう書いた子もいた。

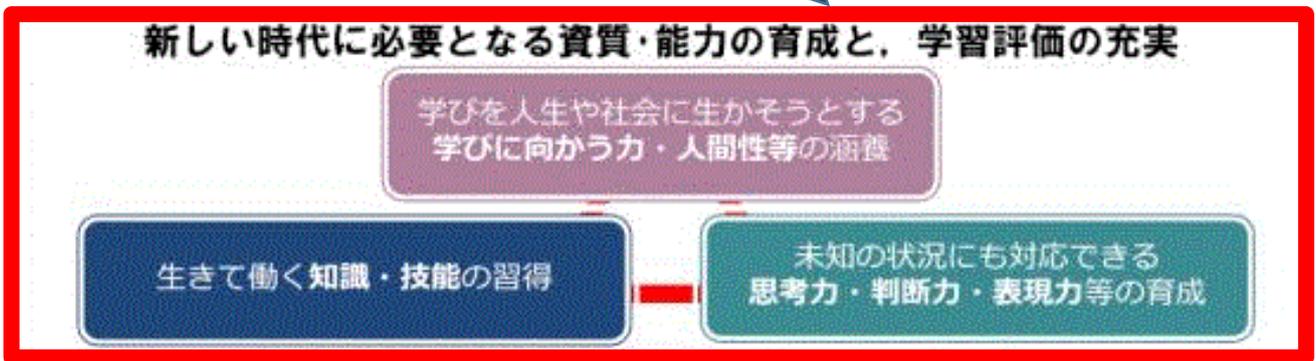
「学習前は、平面で測ってぴったりな上履き袋をつくってしまったけど、学習を通して縫いしろやゆとりを持つことで、完成後にはぴったりした上履き袋ができることが分かりました。この学習を生かして上履き袋を作りたいと思いました。」

知識・技能は必ずしもチョーク&トークで身に付けるものではないし、活用の前に獲得しておくものでもない。一体的に高まっていくよい事例だった。

■ 文科省 Web ページから



何が
できる
よう
になる
か



■ 校長の想い 「『つながり』を学ぶ そして、学ぶことを喜びに」

子供たちには、教科書に書いてあることを学ぶのではなく、教科書に書いてあることを通して「つながり」について学ばせたい。例えば、「昨日習ったことが、今日の学習に、どうつながっているのか」、「自分の考えや行動が、友達に、どうつながり（影響）を与えたのか」、「この学習は、自分のどんな成長につながっていくのか」など、「問題が解けたから、はい終わり」ではなくて、解くまでの過程や思考の拡がりを大切にしたい。

ただし、1つ補足がある。「つながりを学ぶ」とは、「つながりを大切にしなさい、つながりなさい。」と強要しているわけではない。つながることの意義、つながっている状況、つながり方などを探ることで、自分はどうつながっていけばよいのかを思考・判断する力を子供たちに養いたいと考えている。むしろ「自分はこれとはつながらない！」という判断が時には必要であることも、しっかり学ばせるべきだと思う。無限に広がるつながりの中で、自分はどういう役割を担い、どういうつながりを作っていくのか、自ら創造し、意思決定し、行動していく力が、これからの時代に必要な「生き抜く力」だと思う。

また、始業式で子供たちに伝えたとおり、「『学ぶ』ことは『成長する』こと。『学ぶ（成長する）』ためには、挑戦や努力が必要であり、『失敗』はつきものである。」を具現化する教育を行っていきたい。子供たちの「学ぶ」機会は、公平に与えられた権利である。頭が悪いから…とか勉強はほどほどで…ではなく、学ぶことを通して、自分の思考力・判断力・表現力を磨き、自分を成長させる。そしてそれは喜びなんだということを、子供たちに熱く伝えていきたい。